布を創る ②6

ニットファッション素材を企画提案する 株式会社ヤマヨテクスタイル

平井 東 幸

ニット製造から卸への展開が発展の契機に

ニット生地・製品の製造販売企業である同社は昭和9年に綿丸編み業として創業した。昭和26年に株式会社組織(資本金300万円)とし、同30年代には合織ニットにいち早く進出してその後の発展の基礎を築いている。そして昭和39年には㈱ヤマヨジャージを設立している。

昭和45年には特定繊維工業構造改善臨時措置法に基づく構造改善事業により、㈱ヤマヨテクスタイルを設立して、新しい事業体制を確立した。次いで、47年にはニット卸に進出するため㈱エイガールズを設立した。ニット生地メーカーから自社での販売事業への展開であり、これがその後のアパレル、縫製などを含めたグループ経営への大きな契機になっている。

昭和45年には、紀南工場を開設した。同工場は60年代までに数次にわたる増設により、ポリエステル仮撚り機も備えた丸編み一貫生産工場となり、全国で上位5位以内にランクされる有力ニット企業である。

目方の商売からファッションビジネスへ

企画提案型の多品種小ロットのニット生地メーカーである同社は、和歌山産地で最大手の地位を築き上げている。

その事業内容を見ると、ニット生地であれば素材、編み組織を問わず何でもこなすという体制になっている点大きな強みである。しかも、ロットも大きなものから小さいものまで(1反でも可、ちなみに1反でTシャツ30

点に相当)、そして短納期で対応している。生産アイテムは常時100種類を超えている。生産工程面では仮撚りから編み立てまでを自社と協力工場で担当し、染色加工はすべて外注である。縫製も一部自製であり、一貫体制を築いている。

会社概要については、現在資本金は5,000万円、売上高は約54億円(平成9年度、子会社を含む)、従業員数170名(子会社を含む)で、事業所としては本社工場、本社第2工場、紀南工場、紀南大塔分工場の4工場、設備については丸編み機(協力工場を含めて)約300台、仮撚機11台を装備しており、生産能力は月産500トンと大規模である。

グループ売上の構成はおよそスポーツ向け生地が6割、カジュアル向けが3割、販売事業が1割とみられている。

同社で注目される点は、ニッターでありながら早い時期(昭和52年)から単独で展示会を開催するほか、ジャパン・クリエーションには第1回から出展しているなど、時代に先駆けて企画提案型の事業経営を目指したことである。これは大型小売業、総合商社での勤務経験をもつ山下雅生会長の「キロでの商売から脱皮してメートルの商売へ、単品量産型から多品種小ロット高付加価値型への転進を図らなければならない」という経営戦略に基づくものである。

昭和58年にはベルフィーユを設立、縫製事業に進出、また62年にはフランスの名門ニットメーカーであるビヨン・フレール社(同社はフランスの生地見本市・プルミエール・ビジョンの会長会社)と提携している。これが同社のファッションビジネス展開の大きな契機になっている。

Textile Creation
TOUKOU HIRAI

岐阜経済大学・経営学部教授

著者は、日本化学繊維協会調査部長などを歴任され93年より現職。繊維産地と産地企業の調査を精力的に行われ、著書に「繊維業界」(教育社)、「戦後日本産業史」(東洋経済新報社)(共著)などがある。学外活動としては、現在、財団法人ユニフォームセンター専門委員、愛知県繊維産地対策会議委員など。

本稿では、「産業の空洞化」に抗して、日本のクリエーターたちの“布を創る”努力と業績を紹介していただいた。

〈操業中の丸編機〉

さらに販売事業の拡充のため、子会社エイガールズはその商圏を関東に限定し、昭和63年には新たに関西を商圏とするコスコプ・インターナショナルを設立した。また、平成2年には海外展開の一貫として香港にビーガールズを設立している。こうした業容の拡大の要因については「設備投資を重視してきたこと」と「得意先に恵まれてきたことだ」(山下会長)と謙虚に指摘している。

同社の成功要因をまとめてみると、①メーカーとして当然のことながら設備・技術を最重要視していること、②企画開発機能を自社で備えていること、③営業機能を自社内に備えていること、④品質維持、開発力涵養のため一貫生産体制を敷いていること、⑤外資と提携するなど常にグローバルな視野の下で経営が行われていること、⑥ニット事業を中核に据えて本業を不断に重視していること、などをあげることができるが、以上はおおよそ成功しているメーカーの共通点であろう。しかし、根本は経営者個人の人的ネットワークの広範囲さ、視野の広さなどを含めた資質・能力にかかっていることに明白である。

産地と一体化した事業展開を

周知のように地元和歌山は全国の28ニット産地のうちで、とくに丸編み生地ではトップクラスにあり、従来から大量生産型のニット産地であることが特色である。この産地に立地して事業を展開している同社は、ニッターから卸、ニット製品の製造販売と事業を拡大するなかで、平成4年には東京・赤坂にパイロットショップをオープンし、消費者情報の収集にも当たっている。

今後の方向としては、設備投資はメーカーとして最重

〈同社の主力工業〉

点項目であるが、当面は更新投資を主体に考えていくほか、最終消費市場の動向についても、上記パイロットショップなどから常時把握して、企画提案型事業のさらなる展開を目指すとしている。

加えて、地元和歌山産地のリーダー企業として産地集積の維持を図っていきたいとしている。同社の発展は地場に歴史的に蓄積された産業集積を基盤にしているとの認識に立っており、産地の再構築を目指すとしている。

ヤマヨテクスタイルの沿革

年次	記 事
昭和 9年	綿丸編み企業として創業
26	ヤマヨ莫大小株式会社設立
39	ヤマヨジャージー設立
45	ヤマヨテクスタイル設立
47	ニット卸のエイガールズ設立
58	縫製のベルフィユ設立
61	染色加工および販売の株式会社ワイ・ティ・エス設立
	紀南スポーツジャージー設立
62	仏ビヨン・フレールと提携
63	ニット製品販売のコスコプ・インターナショナル設立
平成 2	香港にニット製造販売のビーガールズ設立
4	東京・赤坂にショップ開店
9	ジャパン・クリエーションに出展

株式会社ヤマヨテクスタイル：

〒641-0011 和歌山県和歌山市三葛97-1

TEL：0734-44-1156, FAX：0734-47-1015